

様式第3号（第1項関係）
経理基準

行政視察報告書

令和7年 7月 17日

会 派 名 創生クラブ
代表者氏名
又は議員氏名 田原 実

1 視察議員名 田原 実

2 視察期間

令和7年 7月 10日（木）から
令和7年 7月 12日（土）までの 3 日間

3 視察先

- 1、島根県 浜田市
- 2、兵庫県 神戸市

4 視察目的

- 1、① カチューシャの唄知音都市交流の状況と今後
② 浜田市の漁業振興と新しい取り組み
③ 浜田市議会議会改革度マニフェスト研究会 2024 評価

2、神戸市 「こども本の森 神戸」

5 視察の概要

- 1、① 今年で36年となるカチューシャの唄知音都市交流。各都市から市民が参加しての実務者・広報担当者等連絡会議に出席し、その後の学習会を通じて糸魚川市の相馬御風顕彰をさらにすすめる必要を学んだ。
② 浜田市産業経済部水産振興課職員、ならびに漁業政策にあかるい議員牛尾昭（あきら）氏からの説明を受け、質疑をおこなった。
③ 早稲田大学マニフェスト研究会 2024 全国議会改革度総合2位と評価された内容について牛尾昭（あきら）浜田市議会改革推進特別委員会委員長から説明を受け、質疑をおこなった。
- 2、糸魚川市駅北子育て支援複合施設計画見直しと広場施設の参考事例として、著名な建築家安藤忠雄氏が設計し神戸に寄付した「こども本の森 神戸」を訪れている利用者の数、内訳を聞き、現地での親子の様子を見学した。

*別紙 田原実のレポート



* 田原実フェイスブック記載記事

【議員活動 パート1 島根県浜田市】

カチューシャの唄知音都市交流の実務者会議に参加させていただき、都市交流と相馬御風の顕彰事業のこれからを調査しました。

7月10日、糸魚川から新幹線、北陸線、新幹線、高速バスを乗りついで島根県浜田市に到着。その後浜田漁港を見に行く予定だったのですが、都市交流ツアーの夕食会の時間が早まり断念、翌朝にさっと見ることにします。

伝統芸能石見神楽(いわみかぐら)は素晴らしいですね。

今年の大阪万博にも出演して大変好評だったとうかがいました。

7月11日、午前浜田市役所にて、糸魚川市議会会派創生クラブを代表して、浜田市の新しい漁業について担当課より説明を受け、質疑させていただきました。

漁業が基幹産業である浜田市。

水産会社の誘致、港のこれまで活用が休止していた場所の利用が進みそう、とのこと。同席していただきました浜田市議会牛尾議員からも解説をいただき、より深く現状を知ることができました。

浜田市議会は、早稲田大学マニフェスト研がランクをつける「全国地方議会改革度ランキング」で最近2位の評価を受けられました。

素晴らしいですね。

その取り組みについて、議会改革をライフワークにしてこられた牛尾議員から直接お話を聞いて、糸魚川の現状を考えることも今回の浜田市訪問の目的です。

市民の声を市政に反映させる。

議会の一番の目的を果たすために、どう取り組んできたのか？

やはり、市民に集まっていただき公聴会を開催したとのことでした。

牛尾議員が、市民を「主権者」と言っておられたことが印象的でした。

インタビューしたものを録画にまとめて、後日アップしますのでそちらもご覧下さい。

午後からは、カチューシャの唄知音都市交流ツアーに戻って、金城にある交流施設で昼食をいただき、高価な神楽衣装や面を作っている工房を見学。

続いて本番の実務者・広報者等連絡会議、市民も参加しての研修会(講演会)。

講師は浜田市のご出身で早稲田大学を卒業された作家、志川節子先生です。

島村抱月、中山晋平、松井須磨子、相馬御風についてよく調べられ、またわかりやすい構成にされた小説「アンサンブル」をベースにしたお話しは本当に面白く、何度も聴きたいと思いました。

ぜひ一度糸魚川でもお願いします。

島村抱月先生の素晴らしい功績と人生、新しい切り口で感銘します。

会場からも小説「アンサンブル」の続編をとの声もあり、いよいよ早稲田大学の校歌と相馬御風についてが小説化されるのか！と期待が高まります。

糸魚川市からもバックアップして実現したいプロジェクトと考えます。

研修会の後は交流会。

糸魚川市の担当課から、浜田市の久保田市長に糸魚川市の久保田市長からの親書が渡されました。

長野県長野市、中野市から参加されたみなさん、もう30年のお付き合いになる方もおられるのですが、楽しいお話しをして最後は手を繋いで「カチューシャの唄」を全員で歌います。

この都市交流が世代を越えて、郷土の誇りとなっていくことを祈念申し上げます。

この日の動画もありますので、政務調査の部、牛尾議員へのインタビュー、都市交流の部と分けて、後日アップさせていただきます。

【議員活動 パート2 兵庫県神戸市】

7月12日、島根県浜田市での調査の後、ひとり神戸に立ち寄って「こども本の森 神戸」を見学。館長の森谷さまより、利用状況の概要をうかがいます。

「こども本の森 神戸」は開館して3年3か月を経過して、来館者は約23万4,000人、4年で来館者数を28万人と見込むとのこと。

「平均で年7万人・・・さすがに開館当時のバブリーな入館はないでしょうけど・・・」と森谷館長さま。

利用者の内訳はアンケートで調べており、近隣住民の方の利用が約4割との事で、という事は遠方からここを訪れる学生や建築・デザイン関係者も数多くいるということですね。

さすが、安藤忠雄先生の作品ということでしょうか。

糸魚川の駅北大火からの復興再生を意識し、子育て支援複合施設計画の見直しにおける代案の参考になればと思い現地にうかがいましたが、ハイレベルの建物と雰囲気には圧倒されます。

自分が小学生の時に東京渋谷の子どもの施設や、55年前の大阪万博に行ったときのことが思い出されます。

文化の差、センスの差、都会と建築に憧れる気持ちが思い出されます。

館内の撮影もお許しいただきましたので掲載させていただきます。

建物外観、建物周辺と近接する公園を動画にまとめてみたいと思います。

後日アップさせていただきます。

以下、神戸市のホームページでの紹介文をシェアさせていただきます。

【こども本の森 神戸】

ゆったりとした時間が心地いい図書施設。子どもの好奇心が溢れ出し、大人の童心がよみがえる。

「こども本の森 神戸」は建築家 安藤忠雄氏が設計・寄附した、子どもへの愛を存分に感じる文化施設です。賑わいをみせる三宮駅から南へ、東遊園地の木々を風が揺らす音やせせらぎ、色とりどりの植物を楽しみながら歩くと、突如現れるコンクリート打ちっぱなしのクールな建造物。そっと足を踏み入れると、壮観な空間に誰もがワクワクしてきます。

【利用者の声】

本が好きでも、好きじゃなくても、楽しめる場所。子どもだけではなく、大人も圧倒されます。

祖母が読み聞かせをしているうちに、娘が文字を覚えて一人で絵本を読むようになったんです。そこで、気になっていた「こども本の森」を旅行プランに入れて、広島からやってきました。子どももですが、大人も圧倒される空間ですね。表紙が並んでいるので興味のある本が見つかりやすく、娘は次から次へと絵本を持ってきては夢中で読んでいます。

ウッドデッキや東遊園地で遊びながら利用できるのがいいですね。主人から、乳児でもOKなイベントをやっていると教えてもらい、やってきました。まだ10ヵ月なので絵本をかじっちゃうんですが、そろそろ図書館も楽しめるのかなと思って。絵本に興味を持つきっかけになったらいいですね。外に絵本を持ち出せるとのことなので、次は晴れている日に来て、ウッドデッキや東遊園地で子どもを遊ばせながら読書をしたいです。

表紙を見ているだけで、懐かしくなったり、気になったり。

本の表紙が天井までバーっと並んでいるのが、家の近くの図書館とは違ってすごく楽しいです。保育園のときによく読んでいた絵本、もう何年も読んでいなかったけど、表紙を見たらお話やセリフを思い出しました。あとは、本の種類だけではなく、表紙の色合いで作られている棚もあるのがおもしろくなって。青っぽい表紙の本ばかり集まった棚には、私が好きな宇宙のお話のほかに、夜のお話や海のお話の本もたくさんあって、今日はずっとこの棚の前にいました。